



かけこ通信

令和6年度 第6号
令和6年10月15日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

3年生が「ブドウ収穫体験」に出かけました

9月6日(金)に3年生が「ブドウ収穫体験」に出かけました。

これは「地域創造」「生物基礎」の授業の一環として、奥出雲町にあるブドウ園でのブドウ収穫体験をとおして地域産業の1つである果樹栽培の現状と課題等を体験的に学ぶ機会として実施したものです。昨年度、掛合分校の大門教諭(理科・生物)が島根ワイナリーで社会研修を行わせていただいたご縁もあり、今回実現しました。



はじめに担当者の方からブドウの品種やブドウ園の現況についてお話を伺い、赤ワインの原料となる品種メルローの収穫を体験しました。収穫作業は昼食をはさんで3時間ほど行い、ブドウひと房のずっしりとした重さに驚きながら、はさみで丁寧に収穫をしました。昼食には、バーベキューをご用意いただき美味しいお肉に舌鼓を打ちました。

島根ワイナリーの皆様、様々なお心遣いをいただきありがとうございました。

保健講座を行いました

9月10日(火)6限に、島根法務少年支援センター・

松江少年鑑別所 統括専門官(公認心理士)の中西誠さんをお招きし、保健講座を行いました。

「生徒の心身の健康の保持増進を図るため。対人関係を円滑にするための距離感を学ぶ。」を目的に、「自分と他の人を守る境界線のおはなし」と題して、わかりやすいスライドとともに説明していただきました。「一人ひとり顔が違うように、一人ひとり心もちがっていて、思っていることや考えていることがちがいます」「一人ひとりの違っている考えや思っていることはどれも大切にされなければなりません」というメッセージの冒頭から、「自分と他人との間の透明なバリア(境界線)を守らない行為はすべて暴力である」こと、特に「からだの境界線・性の境界線の中でとても大切な場所(プライベート・ゾーン)を『さわらない・さわらせない、見ない・見せない』という約束を破る行為はすべて性暴力である」ことを強調されました。そして、
○境界線が守られないとき:「相手にイヤと言う」「味方になってくれる大人に話してみる」「その場を離れる」
○境界線を越えるとき:「きちんと言葉で相手の気持ちを確かめる(同意をとる)」



という具体策についても丁寧に教えていただきました。当たり前のように思えるこれらの対応も、とっさにはできないものです。講演を聴くことで改めて認識できました。実際に生徒2人に動いてもらい、距離の取り方、境界線の守り方を見ても学びました。最後には「境界線を守るために、今日から『話をするときの相手との距離』『話しかけるときのマナー』に気をつけよう」と締めくくられました。



今後はこの講演内容を忘れず、他人とのより良い関係を築いていけるように、意識していきたいと思いました。

第2回生徒総会を行いました

9月17日(火)4限に第2回生徒総会を行い、生徒会執行部員は3年生中心の前期から2年生中心の後期へと交代しました。

まず、13日(金)の選挙で新しく生徒会長に選ばれた落合さんから、さっそく「文化祭・球技大会の運営等、新しいことに挑戦したい」と所信表明がありました。その後、代議員・選挙管理委員会等の各委員長から、活動目標やその内容、生徒の皆さんへのお願い等が示されました。



後期生徒会の大きな活動に文化祭の企画・主催があります。11月15日(金)、16日(土)の両日の開催に向けて、いよいよ本格始動です。特に2年生は、10月にインターンシップ、台湾研修と大きな行事が迫っています。それぞれが先々の見通しを持って、進捗状況の一つひとつ確認・把握し、互いに協力しながら、いい文化祭を創りあげていってくれることを期待しています。

2年生営農体験実習(稲刈り)を行いました

9月11日(水)に2年生が今年度2回目の「営農体験実習(稲刈り)」を行いました。当日は午後から雨が降る

予報であったため、午後に予定していた稲刈りを急遽午前中に繰り上げました。気温30度近い蒸し暑さのなか、何とか天気は持ちこたえました。



吉田町民谷の宇山営農組合にお世話になり今年で4回目となる稲刈りは、5月9日(木)に2年生で稲を植えた田んぼを含めて3枚を、全員で、すべてコンバインを使って刈りました。初めは組合の皆さんと一緒に乗ってアドバイスいただきながら恐る恐る操作していましたが、慣れてくれば徐々に一人で運転させていただきました。

この収穫したお米は、10月25日(金)に台湾研修の一環として、現地での「雪姫舞(つや姫)」の広報・販売活動において販売することを予定しています。



午後は、その広報・販売活動に向けて、これまでプレゼント・交流・試食・イベント・宣伝の5つの班でそれぞれ考えてきた計画や意気込み、販売戦略等の中間提案をし、宇山営農組合、市役所、藤本米穀店の皆さんからその助言や注意をしていただきました。特に、「高校生と地域との交流活動を通して『つながり』を大切にしてほしい」「思いついたことはぜひやってみてほしい。後悔しないように準備し、あとの振り返りに生かしてほしい」とメッセージをいただきました。

10月24日(木)の出発まで残りわずか、この実習を受けて準備もいよいよ佳境を迎えます。

ICTワークショップを行いました

9月30日(月)3・4限に2年生、5・6限に1年生がそれぞれICTワークショップ(学力育成講座)を行いました。掛合分校は今年度、文部科学省のDXハイ

スクール事業に採択されましたが、その事業費で購入した2台を含む5台の3Dプリンターを使って、各自が持つパソコンChromebookで設計したものを印刷するという「3Dプリンターワークショップ」がその内容でした。



雲南市木次町にあるデジタルラボ「ピコテラス」の鳥谷館長さまを講師にお招きし、はじめに「3Dプリンターとは」、「アプリ『ティンカーCAD』とは」などを講義していただき、その後、実際にそのアプリを使って各自のネームプレートを作製しました。パソコン画面上で積み木をするような感覚で立体を組み立て、それが成

果物として出来上がるまでを体験しました。

2年生は台湾研修でのお米販売の際に、来場者に配るキャラクターづくりにこれから取り組みます。ここで学んだことを生かして台湾の方々喜んでいただけるとよいです。



2年生台湾研修事前学習(現地大学生とのオンライン顔合せ)を行いました

10月7日(月)13:30から、2年生が台湾研修で交流する現地の真理大学生5名とオンラインで顔合せをしました。研修初日に、真理大学の淡水キャンパスを訪れます。訪問直後の歓迎会後に交流活動を行い、淡水散策を行います。生徒たちから掛合分校・雲南市の紹介をし、大学見学・授業体験・クラブ体験等の交流活動を予定しています。



今日のオンラインでは、日本語が堪能な学生さんたちに事前に質問状を渡していましたが、丁寧に回答していただきました。「好きなアニメは?ゲームは?日本料理は?」といった質問は生徒たちの反応も大きく、共感するものがありました。しかし、「台湾の魅力は?」「なぜ日本語を勉強しようと思ったか?」「台湾で買うおすすのお土産は?」など、学生さんたちが回答に困るようなよく考えられた質問もありました。



この機会を経て、当日の交流活動が深まりそうです。